（別紙様式３）

令和７年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号　　９７
学 校 名　　愛知県立加茂丘高等学校
校長氏名　　柘植　知則

研究責任者職・氏名	教諭・小笠原　詠子
研究 テーマ	生徒の意欲を高める授業づくりとその評価
本年度の 研究目標	（１）生徒の知的好奇心を刺激するような主体的・対話的で深い学びの 実現に向けた授業実践 （２）ＩＣＴ機器の強みを有効に活用した授業実践 （３）育成したい生徒像を明確にした教科指導と観点別評価の改善

研　究　の　実　施　内　容

実施月日	内　　容	備　考 （対象生徒等）
４月	第１回学力向上委員会（今年度の方針）	学力向上委員
５月１３日	現職研修（生成ＡＩ及びＩＣＴ機器の効果的な活用）	全教職員
６月　９日	公開授業週間	全教職員
～１３日	研究授業及び研究協議	
	文学国語　２年２組　教諭　天方玲子	
	日本史探究・世界史探究　３年２組人文コース 教諭　野宮裕子　教諭　伊藤大	
	数学Ⅱ　２年２組自然科学コース　教諭　中原冬馬	
	生物　３年２組自然科学コース　教諭　関谷佳希	
	保健　１年１，２組　教諭　服部和茂	
	論理・表現Ⅱ　２年２組　教諭　浦田凱成	
	英語コミュニケーションⅡ　２年２組　教諭　小笠原詠子	
	情報探究　２年１組　教諭　木原尚美	
６月１３日	あいちラーニング推進事業主管校　研究授業及び研究協議会　参加	教務主任他
７月２２日	あいちラーニング推進事業第１回連絡協議会　於　豊田高等学校	教務主任
８月１８日	現職研修（授業づくりワークショップ）	全教職員
１１月１０日	公開授業週間	全教職員
～１４日		
１１月１４日	研究授業及び研究協議	全教職員
	文学国語　２年２組　教諭　天方玲子	
	日本史探究・世界史探究　３年２組人文コース 教諭　野宮裕子　教諭　伊藤大	
	数学Ⅱ　２年１組　教諭　中原冬馬	
	科学と人間生活　３年２組人文コース　教諭　黒田水紀	
	保健　１年１，２組　教諭　服部和茂	
	論理・表現Ⅱ　２年２組　教諭　浦田凱成	

	英語コミュニケーションⅢ　３年２組　教諭　小笠原詠子 家庭基礎　　１年２組　　教諭　安達容子	
１２月２４日	あいちラーニング推進事業第２回連絡協議会　於　豊田高等学校	教務主任
３月	ホームページへの掲載及び主管校への報告	教務主任
３月下旬	第３回学力向上委員会（今年度の取組の成果と課題の共有）	学力向上委員

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1　研究の取組について

（1） 生徒の知的好奇心を刺激するような主体的・対話的で深い学びの実践に向けた授業実践

今年度の研究テーマである「生徒の意欲を高める授業づくりとその評価」について、各教科で個別に研究テーマを設定し、研究を進めた。

国語	主体的な言語活動(討論や創作活動)の実践
地歴・公民	生徒の意欲を高める教材・指導法の開拓
数学	思考力・判断力・表現力を育む授業づくり
理科	体験活動を用いた授業の模索
保健体育	ＩＣＴ機器使用と指導者の言葉がけによる知的好奇心向上の成立可能性評価
英語	評価の信頼性と妥当性の担保について
家庭科	地域と連携した授業づくり
情報	知的好奇心を引き出すワークシートの活用

生徒の学習に対する内的動機を高めるために、「わかった」「できた」と実感できるような小さな成功体験を多く積ませ、同時に知的好奇心を刺激できるよう、その単元を通じて生徒に何を考えさせるのか、そのためにどのような問いを投げかけるのか、生徒はこの単元の終わりに何ができるようになっているのかを明確にし、授業改善を学校全体で進めていった。夏季休業中に実施した現職研修では授業づくりワークショップとして、主体的・対話的で深い学びにつながる言語活動を実際に体験する機会とし、年２回の公開授業週間では各教科が研究授業を行いその取組について教科内はもちろん教科の枠を超えて積極的に協議を行うことができた。参観に来られた他校や中学校の先生方からも御意見をいただき、生徒が主体の授業づくりを進めた。

総合的な探究の時間で実施される地域活性化に向けた探究活動では、３年生を中心に地域の抱える課題に対してその解決策を企画立案し、地域諸団体と連携し、実践した。来年度以降も継続して実践するための体制作りも行った。また、学校設定科目家庭科ライフ・プロジェクトでも地域の諸団体と連携し、探究学習の成果を積極的に地域に発信した。学校内での生徒の学びを、地域と連携し、学校外につなげていく可能性を各教科で模索した。

（2） ＩＣＴ機器の強みを有効に活用した授業実践

昨年度までの取組を踏まえ、ＩＣＴ機器の活用が効果的な指導のための一つの手段であることを意識し、実践した。また、生成ＡＩの活用についての現職研修を行い、授業での活用の可能性及びその際の留意事項を確認した。

生徒の理解を深め、興味関心を引き付けるための視覚的資料としての活用はもちろん、ロイロノートを使用し、協働的な学びにおける生徒同士の意見共有や成果物の共同制作等、生徒が主体となって活用する場面も多く見られた。また、生徒が自分の学びを可視化し、次につなげるための振り返りのツールとしても活用できた。多くの教科科目での活用が進み、生徒のＩＣＴ活用能力も培うことができた。

（3） 育成したい生徒像を明確にした教科指導と観点別評価の改善

本校では「主体的に学習に取り組む態度育成シート」を毎年４月に作成し、各教科内及び学校全体で目線合わせを行っている。３年間本校で学んだ生徒の「自立した学習者像」を具体的に言語化しイメージを共有する。そこから逆算して１年修了時、２年修了時にはどこまで進んでいるのか、そのための手立てを用意し、日々の授業の中で実践している。

観点別評価の信頼性と妥当性を確保するため、年度当初に評価の計画も立て、生徒に提示し、教科指導を行っている。

２　研究の成果及び今後の課題

（１） 研究の成果

これまで継続して行ってきた授業改善及び評価の改善について、ＩＣＴ機器の有効活用という新しい観点を積極的に取り入れ、２年間にわたって試行錯誤を繰り返し、教科間での情報共有や研修の機会を増やし、教科指導の幅を広げることができた。今年度は特に生成ＡＩを活用し、授業準備や教材作成を進めたケースも見られ、業務の効率化を図ることができた。生成ＡＩを授業中に生徒が利用する場合にはプロンプトをあらかじめ準備し、ファクトチェック等の手順も指示して進めることで、情報収集とその精査、要点のリスト化、文章校正、視覚的資料の作成等、有効に活用できた。

また、今年度は初心に戻り「わかる授業づくり」に焦点を当て、各教科・科目で生徒の学びを効果的に深めるための手立てを考え、実践することができた。観点別評価については、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度のそれぞれの内容を見直し、ルーブリックの活用、教科内での目線合わせ等信頼性と妥当性の確保を図った。

生徒の探究的な学びを学校全体で進め、総合的な探究の時間等におけて地域連携活動を本格的に実践できたことは、今年度の大きな成果の一つである。各教科・科目の授業においても題材として地域課題を取り扱い、総合的な探究の時間につなげることができた。

（２） 今後の課題

生徒の学習到達度に合わせた個別最適な学びについては、教科ごとに試行錯誤しているものの、学校全体としての方向性を定めるまではいかなかった。生徒それぞれの学習到達度は多様であり、チームティーチングや習熟度別クラス展開等、授業中に個別の支援を行っているが、来年度からはＢＹＯＤが始まり、ＩＣＴ機器が生徒の個人の「文房具」となる。タブレットを活用した効果的な手立てを具体的に考え、実践したい。

また、観点別評価の信頼性と妥当性を高めるため、来年度以降も継続して、評価基準や見取りの活動の頻度及び場面設定が適切であるか、教科内及び学校全体での情報共有を丁寧に行い、授業改善を進めていきたい。

※ 本研究報告書は、令和８年３月 13 日までに当該地区の主管校に提出する。

※ 名古屋地区においては、旭丘高校、千種高校、城北つばさ高校は瑞陵高校へ、明和高校、中川青和高校は名古屋西高校へ提出する。